

9月 常任理事会

再び戦争と虐殺政治を許すな!
治安維持法同盟



9月21日中央常任理事会開催



No. 592

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都

文京区湯島2-4-4

平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461

FAX 03(5842)6462

E-mail

chian@bz03.plala.or.jp

頒価 50円

2万人同盟の建設めざし 支部結成と支部活性化を



ところで、戦前の1923年前後に盛り上がった民衆の運動とこれに危機感を持つ

吉田会長は情勢の特徴について、関東大震災から100年の今年、震災に連動して起きたデマ・流言飛語による朝鮮人・中国人虐殺などの事件が発生した事実認識、各地の犠牲者追悼の集い、映画「福田村事件」の上映など「100年を経てようやく」反省し例年以上に語られマスコミの報道がふえている様相を評価。一方、小池都知事が追悼集会への追悼文を拒否し続けていることを糾弾しました。

た国家権力の攻勢——日本共産党への大弾圧、治安維持法改悪（死刑を盛り込み）、31年9月の柳条湖事件（いわゆる満州事変）による中国侵略の開始へと突き進んだ——歴史の教訓を振り返り、「2015年の戦争法反対で国会を包囲した闘いから8年経った。いま『戦前』は想像以上に短期間、急速に進み、戦争に近づいている『新しい戦争国家』ではないか」と言及。「戦中」では「ないか」と言及。「戦争国家」づくりに進む岸田政権と追従する勢力の動向を分析。①世論誘導と言論抑圧は戦争国家にとって戦略的な核心であり、マスコミのとりこみが深化、②現在の政財界の人脈につながる（2ページにつづく）

治安維持法同盟の中央常任理事会は9月21日、東京都内の平和と労働センターで開かれました。吉田万三会長のあいさつ、田中幹夫事務局長の報告と提案、榎本よう子事務局次長の財政報告を受けて、18人が発言。第2次岸田内閣の大軍拡・大増税、憲法改悪の策動と「今こそ出番」の情勢を前に同盟2万人会員の一日も早い実現、支部活性化をめざしての意思統一をしました。

主な記事

- 中央常任理事会を開催 1
- 私も一言／八光亭春輔 3
- 顕彰碑／松井翠次郎 5
- 抵抗の群像／大島博光 6
- 同盟文芸／短歌・俳句・川柳 7

(1ページからつづく)

戦犯・特高警察の系譜、③ロシアのウクライナ侵略と支援する西側陣営の戦争支援が「AI、ドローン(兵器)と情報戦」が主流となりつつあり、④同盟がたたかいたの不可欠な役割を増し、それを担う「学習と行動」のあり方、などを提起しました。

田中事務局長は第2次岸田内閣の危険性を分析、①副大臣26人・政務官28人のなかに女性ゼロの正体、②首相以下、自民党籍の19人の閣僚のうち15人が「日本会議連」「神政連議連」の2つの靖国派議連のいずれかに加盟、③統一協会に「解散命令を請求」できる文科大臣と、副大臣12人、政務官14人の計26人が統一協会との関わりを持つ、危険な布陣だと批判。さらに、「土地利用規制」の策謀、軍事予算の急増、「武器輸出三原則」の見直し・なし崩し、沖縄・辺野古基地建設の強行、マイナナンバーカードの健康保険証への導入などの中止を要求しました。ついで同盟運動の到達点と活動方針を提示。①国会請願署名の実績(21年度9万7000余筆、22年度12

万余筆・6月1日現在)を踏まえ、全国的目標35万1700余筆に対し、8256筆であること。②会員拡大は9月1日現勢で1万6680人、(大会比、72人増)、③支部建設では、愛知・瀬戸、北海道・江別、東京・港と太田、長野・茅南山梨・中巨摩、千葉・船橋に新しい支部(再建含め)が誕生し、同盟強化の要になる、④地方議会請願状況、⑤学習、顕彰活動、⑥同盟「学習テキスト」(案)の年内の発行予定、⑦32回全国女性交流集会の開催(10月29、30日、愛知・蒲郡市)などについて報告。さらに、『治安維持法と現代』の定期購読の促進で3300部の普及をめざす。映画「伊藤千代子」の上映運動成功について提起しました。

常任理事会での発言

18人の発言者と主な発言内容はつぎのとおりです。(敬称略)

◎大野辰男(埼玉)

大会目標をやりきった経験は初めてです。目標に魂を入れて取り組んだことで452人をやりあげることができました。

特別期間を設定するなどして23カ月連続前進で最高の峰を築いた。つぎの大会までに500人、5つある支部を10支部にしていきたい。

◎村山純(沖縄)

戦没者の遺骨が入った泥で基地を作るな、沖縄の基地を最前線基地にしようとしており、これを絶対に許してはならない。

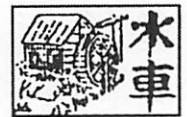
そのためには衆院選で1~4区で、県民と野党との候補を何としても勝利させなければなりません。

◎竹村利幸(長野)

治安維持法が制定されてからまもなく100年を迎えます。長野でどういう準備をしているか発言したい。2026年に長野県本部は50周年になるので、1000人の会員で迎えようと訴えている。各地域で連鎖集会を開いていきたい。

◎小日向昭一(新潟)

会員拡大で努力したことは、情勢との関係を明らかにしたこと。弾圧と戦争は手をつないでやってくるので、国賠同盟を大きくすることがどうしても必要です。維新の馬場代表の暴言を許してはならない。(3ページにつづく)



この6~9月、韓国の国民的画家と詩人を描いた2つの芝居を観て感銘を受けた。戦前、日本帝国が植民地支配

し、朝鮮国民を抑圧した歴史の断面を突きつけられた▼文化座公演「旅立つ家族」は、死後、「韓国のゴッホ」と言われた画家・李仲燮(イ・ジュンソプ)と家族が第二次世界大戦と朝鮮戦争に引き裂かれた物語。絵を学ぶため日本の学校に入り日本女性と結婚するが帰国し貧困と孤独の中で死ぬ▼青年劇場公演「星をかすめる風」は日本留学し治安維持法違反で逮捕された詩人・尹東柱(ユン・ドンジュ)が終戦間近の45年2月、27歳、福岡刑務所で獄死した物語▼二つの演劇は日本と韓国の「負の歴史」の根源をついていた。今年、関東大震災100年。その中で、多くの朝鮮人がデマ、流言飛語で殺害されたことを政府高官、政権党はほかおかりする▼「歴史を修正」する者たちよ、思想・表現の自由を弾圧することの愚かさを知りなさい。(澤)

秘も一言



今日は淡谷のり子さんと一緒なんだ。だから早くいかないといけないんだ。彦六宅から劇場まで地下鉄でわずか10

分、11時30分到着。1時30分開演、彦六の出番3時45分、係の人は誰もいない。後で判ったのだが戦争中、淡谷さんと戦地(中国)に慰問に行ったとき、女は着物にもんぺばきという命令を淡

新たな戦前など作らせない

はっこうていはるすけ
八光亭春輔

俺は淡谷さんの横顔を見ながらこの人となら一緒に死んでも本望だと思つたよ。オイ！お内儀さんには言うなよ。うれしそうに笑つた。

今憲法9条があるのに永田町周辺がキナ臭い。世の中を良くする戦争などあり得ない。ストップザ戦前！
聞いたふりする帳面を孝田つけ

(落語協会・真打)

(2ページからつづく)
カラスが泣かない日があっても拡大のない日はないようにしていくことが大事です。

◎中嶋育雄(東京)

8・15ビラの裏に入会申込書を印刷し配ったら4人の入会者がありました。4つの支部づくりを準備しており、10月には大田区で結成総会を開きます。準備する中で

5人の入会申し込みがありました。
◎本間昭一(北海道)
支部や会員がどんな素晴らしい活動をしているか、どんな悩みを抱えているかをつかんで、道理事会が責任を負っていくようしていきたい。来年の大会までに会員1300人を達成するため、その半分は年内にやりきりたい。

自分の思いを自由に話せる場だと支部の集まりに参加する。支部を自由に話せる場にしていくことが大事である。
◎加藤宣之(奈良)
長谷川テル除幕式への反響などについて。
◎古屋道代(滋賀)
伊藤千代子の上映と支部再建など。

◎甲斐富貴雄(大阪)
「2万人の同盟」の必要性について。
◎大石喜美江(女性部長)
愛知、熊本などでの講演活動について。
◎岩下美佐子(国際部長)
国際活動について。
◎澤田勝雄(『治安維持法と現代』編集長)
『現代』46号秋季号について。
◎清水邦治(東京)
みんなで活動する体制づくりについて。
◎長谷田直之(群馬)
群馬における自由民権運動などについて。
◎風間秀子(東京)
高層ビル群のなかでの新しい支部づくりについて。
◎小松敦(千葉)
毎月2ケタの会員拡大をどう進めていくか、埼玉の経験に学びたい。飯島喜美の顕彰碑建立の取り組みについて。
◎上田実(福岡)
伊藤千代子の映画上映などについて。

ブロック交流集会報告

中国ブロック

9月10日、11日と、山口県下関市で「第33回中国ブロック交流会」が開催され、延べ90人が参加しました。中国地方5県の仲間が集まるのは4年ぶりです。1日目は、県下の運動2例の紹介がありました。まず、下関市立大学で起こっている「市長による大学の私物化」で民主運営ができない問題を、片山房一下関市議（共産）が報告し、大学の運営として市議会の役張りが大きいと強調されました。2つ目は、全国でも話題になった「セシニチュリー購入問題」を原告の松林俊二さんが報告しました。山口地裁では「税金の無駄遣い」をしていると山口県知事を断罪したが、広島高裁では真逆の判決で上告したと、地裁の判決は今も県民を励ましていることを報告し署名の協力を訴えました。

「国賠同盟の活動はあらゆる人への優しさから始まることを学びました」「国賠同盟の会員でよかった」など口々に感想が述べられ、戦前捕えられ拷問や厳しい投獄で死に追いやられた、田中サガヨさんの生き方の根本にあるものを、参加者が感じられる素敵なお話でした。討論は、各県から12人が発言し日頃の活動を共有しました。中でも地方議会への請願で自民党の地方議員が「治安を守るのだからとても良い法律だ」と治安維持法を肯定したことに対し、「粘り強く治安維持法とはと説明することが議会の賛同を得る近道」と教訓を話されると、会場から大きなため息とも、感嘆の声とも取れるざわめきが起きました。

中央から田中事務局長が参加し「伊藤千代子の映画上映で同盟員が数十人増えた県もある。粘り強くないような活動を期待します」と述べ参加者を励ましました。来年は島根県が担当で運動の成果を持ち寄ることを確認しました。

四国ブロック

9月8、9日、四国ブロック4県の交流集会在開催、前回高知集會を最後に4年振りとなりました。事前の打ち合わせで高知の参加目標が出され幹事県の責任を感じていましたが、突然の欠席も有りながら参加は30人を超す事が出来ました。4県と言っても四国の組織は小さく、今回も全国の運動に学びながら各県での取り組みを報告し交流しました。

今集會のハイライトは愛媛県の報告です。「伊藤千代子」の債権購入から上映に至る経過を話され、報告パンフレットを作った事です。この中で県本部が変わり組織の前進が始まりました。長年一人で支えていた小倉誠一郎さんの笑顔が印象に残っています。他県でも上映を通して会員拡大が進みました。

香川県小豆島の取り組みは上映実行委員会と繋がった青年が青年組織に入会され、組織の後継者問題が話



題になりました。

この組織の高齢化は何をしなくても進んで行きます。高知の初代女性部長はこの運動の後継者問題を諦めることなく提唱してきました。働きかけなくして入会はありません、四国4県がそれぞれの自主目標を目指す集會となりました。

(高知県本部 森岡幸一)

各県本部が大会・総会

静岡

全国大会までに520名会員実現を決議

第40回県本部大会は、8月27日、代議員29人、評議員2人が参加し清水民商會館で開催されました。

第一部では、吉田万三会長が「現在の情勢と国賠同盟の役割」と題して記念講演。国民の声を圧殺して戦時体制が作られていった過程を資料を示して明らかにするとともに、今また戦争する国づくりが進行するもとで、国賠同盟の役割の重要性を訴えました。第二部の大会議事では江川佐一会長があいさつ。共産党県委員会など6団体からメッセージが寄せられました。

(5ページにつづく)

顕彰碑 探訪

青年団の民主化、「農村の生活調査」発表

松井翠次郎

1902年4月29日南多摩郡恩方村下恩方に生まれる。

20年代の大正デモクラシーの中で普通選挙権要求などを読んだ松井青年は社会への開眼、民主的に生きる道を選んだ。

農作業を終え村役場の2階で青年たちと読書会、講演会、展覧会など次々と企画した。

政府の青年団教育に抵抗し、農村生活の改善のために旧習や無知・経済的利害を科学的に明らかにした報告書「農村の生活調査」をまとめ、地域に広げた教育実践が、同級生の書店「揺籃社」の橋本義夫の紹介で、岩波書店の「新刊紹介」に取り上げられた。

社会教育実践の試みは、特高が狙うところとなり、治安維持法違反で検



松井家之墓 挙され、親友の橋本も

捕らわれた。突然の拘束に再婚まもない妻は家の黒板に「いつまでも待っています」と書いて夫を支えた。

終戦の年の3月釈放。戦後いち早く八王子市内に疎開していった美濃部達吉、鈴木安蔵氏らを講師として多摩自由大学講座を開き、聴講生は延べ600人を越え、戦後民主主義の気風を拓けた。

生活のために村役場に入り、「商工日日新聞、自治研八王子、多摩のあゆみ、朝日・読売新聞」などに多数寄稿、教育を人間と社会の「変革」としてとらえ、未来への展望を開く教育観を地域に働きかけ続けた

1988年86歳で他界。
【墓所】浄福寺、八王子市恩方村下恩方3259
【交通】JR八王子駅バス停で恩方行きバスで30分。

(4ページからつづく)



次いで早崎事務局長が活動のまとめと今後の活動方針について提案、勝呂伸子財政部長が決算と予算について報告。討論では、大会目標を達成してきた中東遠支部

の山田俊廣支部長が支部委員会を拡大・強化してきた活動の教訓、今後の活動について、女性部の活動についての芝田令子女性部長など3人が発言。「次期全国大会までに520人会員の実現を」という特別決議とともに報告提案を全会一致で承認。役員体制では、江川佐一会長、早崎末浩事務局長など4役を再任、新任2人を含む22人の理事を選出。

(県本部事務局長・早崎末浩)

京 都 歴史的な背景も明らかにして戦争責任を追

同盟府本部は、9月9日に第38回総会を京都市内で開催しました。

一部で原田会長は、あの関東大震災で朝鮮人虐殺があったにもか

かわらず松野博一官房長官は、資料がないと聞き直った。かつて、金田勝利法務大臣が治安維持法は適法的に成立し適法的に運用されたもので調査や謝罪の必要はないと聞き直ったのと全く同じだ。同盟としては、犠牲者名簿づくりをいそぎつつ、歴史的な背景も明らかにして戦争責任を追究していくことが大事だと述べました。

藪田均男事務局長が、活動報告、運動方針、決算、予算などを提案をしました。討論では、京丹後支部の女性の代表から請願署名を出足早く取り組むことや3期に分け目標を決め取り組んでいる活動などが出されました。

2部では、井口和起京都府立大学名誉教授を講師に「京都の治安維持法事件」のDVDを鑑賞し、テーマ「治安維持法100周年にむけて」―節目、節目の京都から問う―を学習しました。会長に原田完、副会長に佐藤和夫、事務局長に藪田均男が再選されました。

(府本部事務局長 藪田均男)

(7ページにつづく)

抵抗の群像



詩で治安維持法を告発

おおしまひろみつ
大島博光

大島博光(1910年〜2006年)は詩人、フランス文学者。反核・平和の詩を書き、世界の抵抗詩人を翻訳・紹介しました。

戦前、ピラを配って留置

わたしは早稲田のキャンパスにいた 教室で「戦旗」が 手から手へ さっと配られた 新しい風が 夢みがちな若者をよび覚した

朝焼けの空の下 わたしもピラを撒きに行った 市電の 高円寺車庫に 下落合のゴム工場に 七月の夜明けの なんと清すが しかつたことか

治安維持法が 大手を振ってのさばっていた 眼つきの悪いハンチングをかむった犬どもがいたるところ 路地や木かげにつつ立っていた

きのうまで いっしょに歌っていた学友たちが 忽然と姿を消して 二度とは現われなかった

戸塚署の留置場は 黒い学生服で溢れていた 「三・一五 怨みの日 われらは君に誓う」 そつと歌って 若者が街を通りすぎて行った

それらすべては また侵略戦争への過程だった サーベルと長靴が わがもの顔にのし歩き 若者たちは 戦場へと駆りたてられて行った

(治安維持法の時代『文化評論』)

小林多喜二や伊藤千代子を讃える

疎開中に敗戦を迎え、翌年に日本共産党に入党、詩人会議に参加して平和をテーマにした詩や政治反動を告発する詩を書きます。小林多喜二ら治安維持法の犠牲となつ

た先人を詩で讃えました。

虐殺は 築地でおこなわれた 治安維持法の 鎖と棍棒と斧で 裁判ぬきで 多喜二は殺された

あけぼののために 闘い倒れた 多喜二よ 現実世界を描いた きみの文学世界は 涸れることのない 清冽な泉だ おれたちはそこに 未来を飲む

明日の日のために闘ったきみは あとにつづくおれたちの胸に いつまでも生きて励ましてくれる

(「明日の日のためにたたかったきみ 小林多喜二」(「赤旗日曜版」)

おお いま 不死鳥のように あなたたちは よみがえる 伊藤千代子よ 高島満兎よ 田中サガヨよ 飯島喜美よ

あの暴虐な 特高警察に 血ぬられた 暗黒の時代 党のひかりに 眼を見ひらいた

あなたたちは うら若かった 党のために 未来のために あなたたちは 差し出した その青春を 勇敢に

だが 赤い四つのバラは 天皇の 犬どもの牙に 噛みちぎられて 無残に散った 奇しくもみんな 二十四歳

自由のために 人民のために そのいのちをささげるほどに 偉大な何が あるだろう

あなたたちはその模範となった

歴史をすすめた あなたたちの 流した血は わたしたちの ころのなかに 流れつづける 涙ともなり 勇気ともなり (「ころろざしつ つ たふれし少女たちのバラード」(「赤旗」)

世界の革命的・民主的詩人を紹介

フランスのアラゴンやチリのネルーダなど、世界の抵抗詩人の詩を訳して出版。チリでクーデターが起きるとチリ人民連帯日本委員会の代表幹事として活動しました。

クーデターから五十年目の本年、大島博光記念館ではこれを記念したアルピジェラ(軍事政権下で作られたパッチワーク)の展覧会と「パブロ・ネルーダ没後五十年展」を開催しています。

(大島博光 大島博光記念館館長)

同盟文芸

短歌

碓田のぼる選

よわい八十九慣れぬ日常クリアーして新たな九十路
 へ初体験続く 大阪府 丸尾ことよ
 我知らぬ多喜二に会うと劇場に急ぐ街並み雨上がる
 空 埼玉県 白川 洋子
 居る現場あなたとわたしは違うけど足下深く掘れば
 つながる 沖縄県 塩田 伸子
 朝鮮人虐殺に追悼拒否の知事民族差別の心貧しく
 大分県 渡辺 幹生
 悲惨な戦起こさぬようと戦争を子達に語る老女の
 夏なり 埼玉県 福家 駿吉
 同盟が語る不屈の歴史こそ共産党の戦前史なり
 岩手県 牛山 靖夫
 戦前も戦中も知る我二度とあの過ちはするまじさせ
 まじ 岐阜県 和田 昌三
 戦前の党の歴史を受け継ぎし「不屈」の思想失せる
 ことなし 静岡県 江川 佐一
 戦前の党史学べば恵まれた今まだ奮闘足らずと自省
 す 東京都 稲邑 明也
 「部下たちをよく殴りました」淡々と侵略兵士の友
 は悔悟す 兵庫県 岸本 守
 〈選のあとに〉丸尾作品は、90歳に入った作者の、
 若わかしい、緊張感がリズムに表現されている。白
 川作品の二句「多喜二に会うと」が実感的である。
 それを支えるのは「劇場に急ぐ」以下の表現である。
 多喜二への慕情が滲む。塩田作品は比喩表現ながら
 沖縄の闘いへの連帯の訴え。

俳句

望月たけし選

天高し「党百年史」広げ読む 神奈川県 天野三葉子
 ストライキ告知の青年眉清し 東京都 今井まき子
 地球沸騰海は台風ふところに 東京都 岡崎たかね
 秋風よ「安保三文書」を晒せ 埼玉県 小池 荘八
 戦争展開催八月いま平和 兵庫県 岸本 守
 〈評〉一句目の「党百年史」には「たたかひの弁証
 法」のダイナミックな姿が。「天高し」が効いてい
 る。二句目は池袋西武デパートのストライキ。記録
 としても貴重に。

川柳

鈴木いさお選

処理水と言葉換えても汚染水 福島県 大滝 史郎
 〈評〉トリチウム等の含有量だけを表に出して処理
 水と胸を張るが、国際世論はどう評価するのか、風
 評被害をどうするのか。
 武器増やし平和のためと言う欺瞞 大阪府 大和 峯二
 独裁者昭和の日本から学ぶ 北海道 三隅 雅游
 吠える虎AREが何か知らんけど 大阪府 佐々木雅博
 四十三兆円暮らし福祉に使うべし 埼玉県 福家 駿吉

福井

学習しさらに行動する 同盟を確認

(5ページからつづく)



第36回県本部
 総会が8月20日、
 福井市の県教育
 センターで20人
 が出席して開か
 れました。

最初に前総会
 後に逝去された

5人の会員に対して黙とうした後、
 松本朗副会長があいさつし、中央
 本部の吉田万三会長からのメッセー
 ジを紹介しました。つづいて来賓
 の金元幸枝日本共産党県書記長か
 ら、激励と連帯のあいさつがあり
 ました。

吉田智明事務局長が総会議案を
 報告し、討論のなかで学習しさら
 に行動する同盟を確認し全会一致
 で可決しました。

総会後、映画「時代を撃て・多
 喜二」をみんなで鑑賞しました。
 会長に村井慶三、事務局長 吉田
 智明を再選しました。

(県本部事務局長・吉田 智明)

映画『わが青春つぎるとも』
—伊藤千代子—上映コーナー

情勢に負けない・平和の基礎
体力創りに貢献する上映運
動を

大阪実行委が第3次上映運動
の呼びかけ(要旨)

府下の上映会では「改めて自
分のやっっている活動の意義を、
原点から考えさせられ、身が引
き締まった」(堺市)という感
想が多く寄せられています。大
阪実行委員会は、①情勢が求め
ている。いまなぜ、民主勢力や
共産党バッシングと立憲野党共
闘破壊攻撃が強まっているのか
この攻撃の本質をつかみ「平和
の基礎体力」を創る力に貢献し
よう②生きづらい・先の見えな
い青年たち。社会に貢献したい
と考えている青年たちに能動的
に働きかけよう。さまざまな形
態の上映会の創意工夫を。全府
下の空白未上映地域克服などの
アピールを出しました。

全国で続々と上映運動(統報)
北海道 遠軽町・名寄市。壮瞥

町。山形県 鶴岡438人参加。
埼玉県 緑区革新懇・坂戸鶴ヶ
島母親大会・大宮地域・映文協
埼玉会館。千葉県 千葉市文化
センター。東京都 国分寺親子
映画・東京土建狛江支部。山梨
県 峡南地域連続上映会計画中。
長野県 松本市&大町2会場ア
ンコール。新潟県 五泉市。石
川県 全上市上映達成記念・千代
子命日墓参ツアー。静岡県 伊
東市。愛知県 清州JCP後援
会・春日井・労働会館。岐阜県
 小規模上映会への補助金支援。
滋賀県 民青試写会・琵琶湖包
囲市町村上映。京都府 戦争展
上映会。大阪府 全府下展開・
第7芸術劇場(11月4~10日)。
兵庫県 但馬地域15日間巡回上
映会。島根県 安来市上映会成
功で支部再建。益田市・出雲市
など。岡山県 高松地域。福岡
県 筑紫野・戸畑・久留米市。熊
本県 八代市。宮崎県 都城市

【10月以降の上映会場はHP掲
載。債券&無債券上映会・15日
間巡回上映会など相談窓口 ☎0
90・4527・1129

【訂正】 本紙9月号 1・3ペ
ジの「私も一言」「加賀かずみ」
は伊賀カズミさんに訂正。6ペ
ジの「集産党は」集産党。7ペ
ジの「近畿ブロック交流集会」は
9月・25・26日に訂正いたします。

事務局日誌

9月6日 「不屈」編集会議

9月8~9日 四国ブロック交流
会

9月9日 石川県本部総会

同日 神奈川県本部総会

9月10~11日 中国ブロック交流
会

9月13日 会長・事務局会議

9月20日 三役会議

9月21日 常任理事会

同日 勤労者レクリエーショ
ン協会60周年記念集会

9月22日 全労連会館運営委員会

9月23日 長野県上小支部総会

9月25~26日 近畿ブロック交流
会

9月27日 北海道本部大会

9月28日 日本母親大会実行委員
会

9月30日 埼玉県本部女性部結成
集会

10月末発売予定

『治安維持法と現代』

2023年秋季号(46号)

【巻頭論文】 歯止めなき軍事大国日本を憂う= 藤野厚、敵基地攻撃能力の危険な企み—岸田内閣論= 五十嵐仁、防衛政策の大転換= 末浪靖司、「土地利用規制法」の乱用を許さない= 東森英男【特別寄稿】 炉心溶融汚染水の放出を中止せよ= 池内了、青年たちに未来は見えているか= 久保田貢、関東大震災100年と朝鮮人虐殺事件= 関原正裕、23年私学学校法改正と「審附行為」改正の課題【ビック対談】 国家賠償法実現へ—われわれには未来がある= 菱谷良一・小林 節【治安維持法成立100年企画】 私たちの目指す国家賠償法の視座= 内田博文、伊藤千代子・相沢良の青春と治安維持法= 高崎裕子【学術・文化】 生成AIを社会科学はどう読み解くか= 友寄英隆、映画を持って民衆の中へ—山本薩夫没後40年= 石子順、没後90年・宮沢賢治とシベリア出兵= 澤田勝雄、映画「福田村事件」= 平澤清一、映画は治安維持法をどう描いたか= 上田精一【世界と日本の戦争博物館】 広島・大久野島毒ガス資料館= 高橋信雄【弾圧と抵抗の群像】 シュールレアリスムへの弾圧と抵抗の芽= 荻野富士夫、《顕彰碑建立》原菊枝の革命的生涯とその火を継ぐ= 小日向昭一、長谷川テルの顕彰事業のさらなる発展を= 田辺実

治安維持法と現代を結ぶ運動理論誌 定価1000円、申込みは中央本部・各都道府県本部へ。